

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

ふじのくに多文化共生ネット

1. 事業名称

多文化共生のためのふじのくに多文化共生サポーター育成事業

2. 事業の目的

静岡県東部地域には、製紙、自動車産業、水産加工業などで働く外国人労働者が多く居住している。そのため、行政では、地域のボランティアによる従来型の日本語教室を運営しているが、外国人が社会に積極的に参加できるような仕組みでの運営には至っていない。しかも、東部の一部地域の行政は未だ多文化共生への意識が薄く、外国人との共生に消極的なところがある。今後は、外国人市民と日本人市民とが互助関係を築き、共に地域づくりを目指していく多文化共生のためにも、日本語教育が社会に周知されていくことが必要で、その日本語教育が支援を行う日本人のみならず外国人にとっても社会教育としてあることがのぞましいと考える。そこで、東部地区在住の外国人と日本人を対象に多文化共生サポーターを育成し、相互理解を深め、それぞれの特性を活かし連携・協働して地域社会の多文化共生に貢献できる人材としていく。

3. 事業内容の概要

高い日本語能力を有する外国人住民が率先して社会活動に参加できるように促進していくための日本語教室を開講し(取組1、2)、日本人と協働して世界文化遺産である富士山周辺の地域の魅力について情報発信する機会を提供する(取組3)。そして、この情報発信を地域の企業や行政の協力を得て行うことで、多様な機関と連携した多文化共生に資する事業へと発展させていくことを目標とする。とりわけ、平成25年度の事業成果を精査し、さらに内容を充足させていくことから、地域ぐるみでの日本語教育の推進を図っていく。またこれらのプロジェクトには、日本語教育の専門家や実践者のみならず、行政関係者、企業関係者、地域経済活性化に関する専門家により構成された協議会を設置し、地域の課題を協議しながら進めていくこと(取組4)で、事業を多角的に評価することが可能となり、この活動成果は十分に他地域にも汎用できると考える。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年4月17日(木) 19:00～21:00	2時間	ブラサヴェルデ	高澤啓子、堀永乃、原田知博	今年度の事業について、日本語講座の内容の検討	開催場所、募集方法、講師依頼
2	7月5日(土)18:30～20:30	2時間	アイアイ	高澤啓子、原沢伊都夫、大川英明、諸星雅和	日本語講座の内容の検討	募集方法、地域・行政との連携
3	10月28日(火)18:30～20:30	2時間	ブラサヴェルデ	高澤啓子、堀永乃、原沢伊都夫、諸星雅和	シンポジウムの内容の検討、日本語講座の進捗状況	開催場所、募集方法、講師・パネリスト
4	3月4日(水)17:00～19:00	2時間	不二家	高澤啓子、堀永乃、大川英明	シンポジウムの報告、成果	シンポジウムアンケート、開催場所
5	3月4日 19:00～21:00	2時間	不二家	高澤啓子、堀永乃、大川英明、諸星雅和	日本語講座の報告、事業のふりかえり	講座アンケート、今後の課題

5. 取組についての報告

○取組1:多文化共生サポーターのための日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国人の学習意欲を高める内容のカリキュラム構成により地域のニーズに適応した日本語教室を開講し、学ぶ機会の提供を行う。一方、外国人が積極的に社会に参画できるように、受け入れる側の日本人の意識の啓発を促進していく。

(2) 取組内容

ある程度の日本語能力を有し、日本社会への適応を果たした外国人を対象に、多文化共生サポーターとして地域に参画できる人材になるための日本語教室を、地域や行政と連携・協働して開催する。

(3) 対象者 東部地域在住の外国人市民、この活動に関心のある日本人市民

(4) 参加者の総数 23 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	1人	マレーシア2人、アルゼンチン1人、ラオス1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	2人	ペルー	人	
ベトナム	1人	フィリピン	2人	
ネパール	人	日本	13人	

(5) 開催時間数(回数) 48 時間 (全 24 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年8月30日 10:00～12:00	2時間	ブラサヴェルデ	5人	ブラジル1人、アルゼンチン1人、インドネシア1人、ベトナム1人、日本1人	防災、災害	防災、災害時の日本語	田中夏	高澤啓子、神谷弘樹
2	平成26年9月5日 18:30～20:30	2時間	沼津商工会議所	5人	フィリピン1人、マレーシア1人、日本3人	防災、災害	防災、災害時の日本語	田中夏	高澤啓子、神谷弘樹
3	平成26年9月6日 10:00～12:00	2時間	東部イノベーションセンター	7人	ブラジル2人、アルゼンチン1人、マレーシア1人、ベトナム1人、日本1人	防災、災害	防災の知識、災害時に備える	神谷弘樹	高澤啓子、田中夏
4	平成26年9月12日 18:30～20:30	2時間	沼津商工会議所	2人	フィリピン1人、日本1人	防災、災害	防災の知識、災害時に備える	神谷弘樹	高澤啓子、田中夏
5	平成26年9月19日 18:30～20:30	2時間	ブラサヴェルデ	4人	インドネシア1人、日本3人	まちづくり	地域活動に参加するための日本語	田中夏	高澤啓子、加藤あきこ
6	平成26年9月20日 10:00～12:00	2時間	ブラサヴェルデ	6人	ブラジル2人、ラオス1人、マレーシア1人、ベトナム1人、日本1人	まちづくり	地域活動に参加するための日本語	田中夏	高澤啓子、加藤あきこ
7	平成26年9月26日 18:30～20:30	2時間	ブラサヴェルデ	2人	フィリピン1人、日本1人	自治会	自治会活動に参加するために	加藤あきこ	高澤啓子、田中夏
8	平成26年9月27日 10:00～12:00	2時間	ブラサヴェルデ	7人	ブラジル2人、ラオス1人、マレーシア1人、インドネシア1人、ベトナム1人、日本1人	自治会	自治会活動に参加するために	加藤あきこ	高澤啓子、田中夏
9	平成26年10月10日 18:30～20:30	2時間	ブラサヴェルデ	3人	マレーシア1人、インドネシア1人、日本1人	医療、看護	医療の日本語	永尾ひとみ	高澤啓子、日比野沙織
10	平成26年10月18日 10:00～12:00	2時間	ブラサヴェルデ	10人	ブラジル2人、フィリピン1人、アルゼンチン1人、ラオス1人、マレーシア1人、インドネシア1人、日本3人	医療、看護	医療の日本語	永尾ひとみ	高澤啓子、日比野沙織
11	平成26年10月17日 18:30～20:30	2時間	ブラサヴェルデ	5人	フィリピン1人、日本4人	医療、看護	病気になったら、けがをしたら	日比野沙織	高澤啓子、永尾ひとみ
12	平成26年10月25日 10:00～12:00	2時間	ブラサヴェルデ	9人	マレーシア2人、ブラジル2人、アルゼンチン1人、ラオス1人、日本3人	医療、看護	病気になったら、けがをしたら	日比野沙織	高澤啓子、永尾ひとみ
13	平成26年10月24日 18:30～20:30	2時間	沼津商工会議所	4人	フィリピン1人、日本3人	介護	介護の日本語	増田由美	高澤啓子、深沢康久
14	平成26年11月8日 10:00～12:00	2時間	沼津商工会議所	4人	アルゼンチン1人、インドネシア1人、フィリピン1人、日本1人	介護	介護の日本語	増田由美	高澤啓子、深沢康久

15	平成26年 10月31日 18:30～ 20:30	2時 間	ブラサヴェルデ	3	フィリピン1人、日 本2人	介護	認知症について、介護保険の利用 のしかた	深沢康久	高澤啓子、増 田由美
16	平成26年 11月15日 10:00～ 12:00	2時 間	ブラサヴェルデ	8	フィリピン1人、アルゼンチン1人、 ラオス1人、マレーシア1人、インドネシア1人、 日本2人	介護	認知症について、介護保険の利用 のしかた	深沢康久	高澤啓子、増 田由美
17	平成26年 11月21日 18:30～ 20:30	2時 間	沼津商工会議 所	2	日本2人	子育て	子育ての日本語	岩崎いずみ	高澤啓子、高 橋弘美
18	平成26年 11月22日 10:00～ 12:00	2時 間	沼津商工会議 所	9	ブラジル2人、フィ リピン1人、ラオス 1人、日本5人	子育て	子育ての日本語	岩崎いずみ	高澤啓子、高 橋弘美
19	平成26年 11月28日 18:30～ 20:30	2時 間	ブラサヴェルデ	2	日本2人	子育て	日本での子育て、県や市の子育て 支援	高橋弘美	高澤啓子、岩 崎いずみ
20	平成26年 11月29日 10:00～ 12:00	2時 間	ブラサヴェルデ	6	ブラジル2人、ラ オス1人、日本3 人	子育て	日本での子育て、県や市の子育て 支援	高橋弘美	高澤啓子、岩 崎いずみ
21	平成26年 12月5日 18:30～ 20:30	2時 間	沼津商工会議 所	5	ブラジル2人、日 本3人	教育	学校で使う日本語	川口美津子	高澤啓子、竹 内重延
22	平成26年 12月6日 10:00～ 12:00	2時 間	沼津商工会議 所	4	マレーシア2人、 インドネシア1人、 日本1人	教育	学校で使う日本語	川口美津子	高澤啓子、竹 内重延
23	平成26年 12月12日 18:30～ 20:30	2時 間	ブラサヴェルデ	7	マレーシア1人、 ラオス1人、インド ネシア1人、日本 4人	教育	日本の教育、静岡県教育	竹内重延	高澤啓子、川 口美津子
24	平成26年 12月13日 10:00～ 12:00	2時 間	ブラサヴェルデ	5	ブラジル1人、アルゼンチン1人、 日本3人	教育	日本の教育、静岡県教育	竹内重延	高澤啓子、川 口美津子

(7) 参加者の募集方法

募集チラシを国際交流協会、地域の日本語教室・学校、大学、図書館、外国人を雇用する企業、等に配布。団体のFacebookページ、沼津国際交流協会のホームページに掲載、昨年度の参加者・連携先にチラシと案内を送付。



(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



防災・災害時の日本語。静岡県多文化共生課作成の『地震防災ガイドブック「やさしい日本語」版』を使用して、いざというときに必要な日本語を学んだ。



医療の日本語。日本の医療システム、保険について学び、病院に行くとき最初に書かなければならない問診票を書く練習をした。



自治会活動に参加するために。日本の自治会のシステムと、自治会に参加するメリットについて学んだ。



学校で使う日本語。日本の教育システム、日本独特の学校行事や授業のときに使う日本語を学んだ。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

外国人が日本で生活していく上で重要なテーマについて、日本のしくみや現状及びテーマに関する日本語の基本的な表現などを知ることにより、より安心して快適な生活を送るための日本語と知識を身につけるきっかけを作ることができた。また、参加者のアンケートから「自治会という地域の活動があることがわかった」というコメントがあることから、外国人にまだ周知できていない情報についても提供することができた。日本人にとっては、外国人と一緒に同じ講座を受講することで、自身の国についての知識を改めて見直す機会となった。これは「外国人がわからない日本語がなにかがわかった」という参加者の声もあるように、外国人にとって日本語を学ぶことの重要性和難しさを知り、身近な外国人にどのように説明したら分かりやすいかを学ぶことができた。

(10) 改善点について

曜日と時間について、平成25年度の受講者アンケートをもとに決めたにも関わらず出席率が低かったので次回は講座が始まってからでもアンケートを取り直して変更することも選択肢の一つに入れたい。

○取組2:多文化共生サポーターのための日本語ブラッシュアップ講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国人と日本人の参加者による一連の協働作業において、社会教育的な位置付けとしての日本語教育の充実に図っていく。また、講師や協力者として地元住民や企業に参加してもらうことで、受け入れ側の日本社会の意識啓発へとつなげていく。

(2) 取組内容

高い日本語能力を有する外国人と日本人住民とが協働して、世界文化遺産の富士山周辺の文化・史跡などの情報を収集し、その魅力を広く伝えることができるようになるための日本語を学ぶ講座を開講する。日本語での情報収集力、コミュニケーション能力はもとより、プレゼンテーション能力、折衝能力を高めることができる内容とする。また、日本人住民との関わりを得ることで、相互に「顔が見える」関係性をつくり、異文化理解を深める機会にする。本講座への参加で、外国人住民が自分の居住区の文化歴史について造詣を深めることで、日本語を通じた地元郷土愛を育むほか、地域住民としての自覚を再認識し、積極的な社会参画へとつなげていきたいと考える。さらに、既に多文化共生サポーター的な役割を果たしている外国人には、自身のブラッシュアップ研修と位置付ける。

(3) 対象者 東部地域近隣住民である外国人(高い日本語能力を有する者)とこの活動に興味のある日本人

(4) 参加者の総数 27 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	2人	マレーシア2人、アルゼンチン1人、ラオス1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	2	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	19	

(5) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 4 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年9月7日 13:30～16:30	3時間	沼津市プラサヴェルデ	16人	ブラジル2人、アルゼンチン1人、インドネシア1人、日本12人	文化を考える	異文化コミュニケーションの基本となる文化について考える	原沢伊都夫	高澤啓子
2	平成26年10月19日 13:30～16:30	3時間	御殿場市市民会館	11人	ブラジル2人、アルゼンチン1人、マレーシア1人、インドネシア2人、日本5人	異文化を体験する	異文化シミュレーションゲーム「バーンガ」に参加して異文化を体験する	原沢伊都夫	高澤啓子
3	平成26年11月9日 13:30～16:30	3時間	富士市交流プラザ	10人	ブラジル1人、アルゼンチン1人、マレーシア1人、ラオス1人、日本6人	異文化を認識する	異質なものを排除しようとする差別の意識について考える	原沢伊都夫	高澤啓子
4	平成26年12月14日 13:30～16:30	3時間	三島市日大三島北口校舎	14人	ブラジル1人、マレーシア1人、インドネシア1人、日本11人	世界の価値観を知る	自分自身の価値観を世界の価値観の中で見つめ直す	原沢伊都夫	高澤啓子

(7) 参加者の募集方法

募集チラシを国際交流協会、地域の日本語教室・学校、大学、図書館、外国人を雇用する企業、等に配布。団体のFacebookページ、国際交流協会のホームページに掲載、昨年度の参加者・連携先にチラシと案内を送付。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



文化を考える。私たちのまわりに溢れている異文化について、どのような異文化があるか、特に、見える文化と見えない文化について考えた。



世界の価値観を知る。多様な文化の価値観を、対立する二つの考え方で見つめ直し、自分自身の価値観と比較し、グループで話し合った。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

外国人と日本人の参加者による一連の協働作業において、社会教育的な位置付けとしての日本語教育の充実を図っていくとともに、地元住民や企業に講師や協力者として講座に参加してもらうことで、受け入れ側の日本社会の意識啓発へとつなげていくことを目標とした。結果として、本講座が地域住民である日本人と外国人が同じテーマについて一緒に学び、意見交換し、交流する形態で実施したことにより、お互いの価値観や文化の違いを直接知ることが出来る機会となった。と同時に、外国人にとっては日本語で伝えたい・話したいという意欲が増すことで学習動機が高まり、日本人側にとっては、日本語でコミュニケーションをすることにより、外国人から得ることや学ぶこともあるということや、多様な価値観を受け入れることの楽しさ、メリットを感じ、日本語教育の充実を図ることの大切さを実感いただく好機となった。

(10) 改善点について

静岡県東部の4市を会場とすることで、広く募集した参加者の住む市の現状把握と各市の国際交流協会等との交流を計画したが、毎回会場が変わったことで迷子になったり遅刻したりする参加者が出てしまったので、会場の選定は交通の便等も考慮し、外国人にも分かりやすい会場を選んだほうが良かった。

○取組3:取組名称 地域の魅力再発見・ふじのくにシンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標
これまで日本語教育や外国人支援に対して情報を受け取っていなかった市民に対して、本事業を広く周知していくことで、多文化共生に関する知識を深め、在住外国人の社会参画による社会的効果について認識し、その理解を促進していく機会とする。

(2) 取組内容
取組1と2の成果を発表し、多文化な人が持つ高い能力を活かした地域活性化にむけた提言と情報発信を行う。
●基調講演 石井恵理子氏
在住外国人のライフステージと日本語、コミュニケーションに視点を置き、日本語教育が果たす役割について考える機会とした。日本に暮らす外国人にとって、その時々が必要となる日本語は、育児、働く同僚との会話、介護など、求められている役割によって異なる。そのため日本語学習支援もニーズによって異なる。また、彼らを受け入れる日本人側の理解を同時に進めていくことが大切で、その理解の促進のためにも隣人同士の豊かなコミュニケーションを育むことが重要であることを参加者全員で共有した。

●パネルディスカッション
地域にある大学、行政の立場から、グローバル化が進む地域での各取り組みを伺い、外国人住民として静岡県東部地域がどのような地域なのかを感じるままに意見を交わした。世界文化遺産を有する地域であるからこそ、またオリンピックパラリンピックの開催にも向け、ますます外国人観光客がやってくることを踏まえて、在住外国人が有する力を活かして、彼らがむしる地域の宣伝を自身の言葉で発信していけるような仕組みづくりなど、様々な工夫を積極的にすることで、この東部地域の魅力を高めていく必要があることを参加者一体となって考えていった。

(3) 対象者 静岡県東部地域の日本人および外国人住民や関心のある方

(4) 参加者の総数	65 人
出身・国籍別内訳	
中国	人
韓国	人
ブラジル	3人
ベトナム	人
ネパール	人
インドネシア	人
タイ	人
ペルー	人
フィリピン	人
日本	60
不明2人	

(5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年2月21日 13:00～17:00	4時間	沼津市商工会 議所	65	ブラジル(3人)、 不明(2人)、日本 (60人)	文化の多様性を考える ～外国人とともに地域の未来を創ろう～	本事業の紹介。地域住民に多文化共生に関する情報と生活者としての外国人に対する理解と日本語教育の必要性を周知するための講演。在住外国人の社会参画による社会的効果について理解を促進していくためのパネルディスカッション。静岡県東部の日本語教室、国際交流団体の紹介コーナー設置。	石井恵理子、原沢伊都夫、諸星雅和、神谷弘樹、清水留偉主、堀永乃	高澤啓子、久保田実、川崎智美、松岡真仁、峯田郁、望月舜太郎

(7) 参加者の募集方法

募集チラシを静岡県東部の国際交流協会、地域の日本語教室・大学、図書館、外国人を雇用する企業、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、国際ソロプチミスト等に配布。団体のFacebookページ、沼津国際交流協会のホームページに掲載。

昨年度の参加者・連携先にチラシと案内を送付。

平成26年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムB「ふじのくに多文化共生サポーター育成事業」シンポジウム

文化の多様性を考える ～外国人とともに地域の未来を創ろう～

日時 2月21日(土) 13:30～16:30 (開場 13:00)
場所 沼津商工会議所4F大会議室
定員 100人
参加費 無料



基調講演「在住外国人のライフステージと日本語コミュニケーション」

石井恵理子 (東京女子大学現代教養学部教授)

パネルディスカッション「外国人とともに地域の未来を創ろう」

パネリスト 石井恵理子 (東京女子大学現代教養学部教授)

原沢伊都夫 (静岡県国際交流センター教授)

鎌田理希 (静岡県企画広域振興部地域外交課多文化共生課長)

神谷弘樹 (静岡県東部危機管理課 地域支援課主幹) (予定)

清水理恵子 (ブラジル出身、外国人受講者代表)

コーディネーター 堀 永乃 (一般社団法人グローバル人材サポート浜松代表理事)

<お申込み・お問合せ>

お名前、ご住所、お電話番号、メールアドレスを記載のうえ、下記の連絡先まで

Eメールまたはファクスにてお申込みください

Eメール fujinokuni.mn001@gmail.com 電話 055-931-1133 ファクス 055-922-7341

主催 ふじのくに多文化共生ネット

後援 静岡県、沼津市、沼津国際交流協会、一般社団法人グローバル人材サポート浜松

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

基調講演



パネルディスカッション



それぞれの立場から取組1に関わったことに対する感想や意見を聞き、日本人側に外国人も地域を支える人だという意識啓発のきっかけになったことがわかった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

本事業の紹介と講演により、本事業についてまったく知識のなかった地域住民(特に経済界の出席が多かった)に、多文化共生に関する情報と生活者としての外国人に対する理解と日本語教育の必要性を周知することが出来た。パネルディスカッションでは、在住外国人の生の声を聞き、外国人の社会参画による社会的効果について理解を深めることが出来た。静岡県東部の日本語教室、国際交流団体の紹介コーナーを設置することにより、団体相互の情報交換と交流の機会となった。アンケートの結果にあるように、参加者が「何かを始めていかなければならないという思いになった」ことは、多文化共生の意識啓発につながったと思われる。

(10) 改善点について

外国人の参加者を増やすための広報の方法を検討する必要がある。

○取組4: 多文化共生サポーター育成協議会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国人の入口から出口までの支援体制を確立すべく、個々の能力を持ちより、外国人市民が社会に積極的かつ自発的に参画できる道筋づくりを目指す。

(2) 取組内容

多文化共生に関する意識や活動がいまだ薄い東部地域における、外国人が積極的に社会参加するために必要なことは何か、その課題と解決策を協議する会を設置する。行政・地域・住民への働きかけにより、外国人が地域社会に入り込みやすい環境と地域住民が外国人を受け入れやすい環境をつくるための道筋を考え、提言をまとめる。

(3) 対象者 企業、大学、行政、多文化共生づくりの専門家

(4) 参加者の総数 4 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	4人	

(5) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 5 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	出席者	補助者氏名
1	平成26年5月6日(火) 13:30～15:30	2時間	沼津不二家	2人	日本	多文化共生サポーター育成協議会	外国人が積極的に社会参加するために必要なことは何か、その課題と解決策を協議	原沢伊都夫、高澤啓子	
2	5月21日(水)18:30～20:30	2時間	三島不二家	3人	日本	多文化共生サポーター育成協議会	外国人が積極的に社会参加するために必要なことは何か、その課題と解決策を協議	原沢伊都夫、松浦康世、高澤啓子	
3	1月13日(火)14:00～16:00	2時間	浜松グローバル人財サポート 浜松事務所	2人	日本	多文化共生サポーター育成協議会	外国人が地域社会に入り込みやすい環境と地域住民が外国人を受け入れやすい環境をつくるための道筋について協議	堀永乃、高澤啓子	
4	3月16日(月)13:00～15:00	2時間	三島不二家	4人	日本	多文化共生サポーター育成協議会	提言とりまとめ、作成	堀永乃、原沢伊都夫、松浦康世、高澤啓子	
5	3月16日(月)15:00～17:00	2時間	三島不二家	3人	日本	多文化共生サポーター育成協議会	提言とりまとめ、作成	原沢伊都夫、松浦康世、高澤啓子	

(7) 参加者の募集方法

事前交渉により決定

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

(会議形式で実施。写真なし)

(9) 取組の目標の達成状況・成果

別添の提言書にあるとおり、「多文化共生」を担う人材の育成が急務であることを確認した。また、多文化共生に対する基礎的な意識啓発が日本人住民に必要であること、外国人側にはそのリーダーになりうる人たちが積極的に社会参画できるよう、彼らの日本語をアウトプットする機会の提供を創出していくことが求められているということが確認された。

(10) 改善点について

委員は、日本語教育に携わる者や専門家で構成され、静岡県東部地域の連携とネットワークの構築に向けた地域の日本語教育という視点で課題を出し合った。本事業では、そのための協議を重ねてきたが、「生活者としての外国人」というものの、東部地域の外国人が見えないことや地域全体として多文化共生に対する意識を高めるまでの手法の確立には至らなかった。この取り組みには、当事者としての外国人を入れることができなかった(委員としてお願いはしていたが仕事の都合で不参加になってしまった)ので、今後は外国人の声を拾えるようにしていかなければならない。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

静岡県東部地域には、製紙、自動車産業、水産加工業などで働く外国人労働者が多く居住している。そのため、行政では、地域のボランティアによる従来型の日本語教室を運営しているが、外国人が社会に積極的に参加できるような仕組みでの運営には至っていない。しかも、東部の一部地域の行政は未だ多文化共生への意識が薄く、外国人との共生に消極的なところがある。今後は、外国人市民と日本人市民とが互助関係を築き、共に地域づくりを目指していく多文化共生のためにも、日本語教育が社会に周知されていくことが必要で、その日本語教育が支援を行う日本人のみならず外国人にとっても社会教育としてあることがのぞましいと考える。そこで、東部地区在住の外国人と日本人を対象に多文化共生サポーターを育成し、相互理解を深め、それぞれの特性を活かし連携・協働して地域社会の多文化共生に貢献できる人材としていく。

(2) 事業目的の達成状況

取組1に地域住民を講師に迎えたことや参加者に日本人住民もあったことから、日本人が外国人とのコミュニケーションについて考える好機となった。また、「自治会」や「介護」「子育て」といった講座で、同じ悩みや課題があることを共有できたことも相互理解を深めることになったと思われる。取組2では、異文化理解を学ぶ機会を東部4か所という広域で開催し、外国人との共生について広く県民に伝えることができ、外国人と日本人というだけでなく、沼津市民と富士市民といったように他地域の住民との接点を創ることができ交流を深められた。

(3) 地域における事業の効果、成果

取組1では自治会、行政、介護、教育に携わる現場の日本人を講師に迎えることができたので、そういった立場の方たちに外国人への日本語教育支援を体感していただくことができ、新たな担い手としてのつながりを構築するきっかけづくりができた。シンポジウムでは、多文化共生や日本語教育のカテゴリーにいる方よりも経済界の方々の参加が多かった。このことから、本事業の実施を通して、国際交流や外国人支援とは異なるカテゴリーの住民に、「生活者としての外国人」と「外国人がいることで自分たちの地域の魅力をあげることができる」ということを提示し、理解を深めていただくことができたことが成果であると考えられる。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

二年度にわたる講座で、多文化共生サポーターの候補者を何人も発掘することが出来たが、地域住民、行政に携わる日本人の、生活者としての外国人や外国人のための日本語教育、多文化共生に対する意識が高くないことは残念なことである。自治会だけでなく国際交流協会のような団体にも外国人の姿がほとんど見られない。イベント等の会場では外国人の姿も見られるが、その日のみ参加のお客様状態であり、日本人との継続的な交流には発展していない。

ii 今後の課題

外国人の多文化共生サポーターと同時に日本人の多文化共生サポーターを育てていく必要がある。外国人が積極的に地域に溶け込むことが出来る環境をつくるためには、まず日本人側が変わることが必要である。外国人が日本語能力を向上させ、その日本語を駆使して日本人と快適に共生していける環境づくりのため、日本人と外国人が共に活動し交流し、相互理解を促進出来る機会を増やしていくことが望ましい。

iii 今後の活動予定

多文化共生サポーターと日本人との接点をより多く設けていくために、市、国際交流協会、大学と連携し、誰もが参加しやすい交流型のイベントを開催していく。これにより、在住外国人も地域で活躍できる場を創出し、日本人側の多文化共生への意識啓発へとつなげていく。また、関係機関の協働により、連携強化を図り、外国人のための日本語教育への支援体制の基盤を固めていきたいと考えている。

(5) その他参考資料

○取組1・2・3のアンケート結果

○『ふじのくに多文化共生ネット「多文化共生サポーター育成に向けた地域課題と提言」』

「多文化共生サポーター講座」アンケート結果

1. 内容についてお答えください。

講座①

Aコース

【1回目】 防災・災害の日本語

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・0
4. 良かった・・・1

《理由》外国人がわからない日本語がわかった。

5. とても良かった・・・1
6. 欠席したのでわからない・・・5

【2回目】 防災・災害

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・0
4. よかった・・・0
5. とても良かった・・・1
6. 欠席したのでわからない・・・6

【3回目】 まちづくり・自治会の日本語

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・1
4. 良かった・・・2
5. とても良かった・・・1

《理由》自治会など地域活動の大切さが良く理解できた。

6. 欠席したのでわからない・・・3

【4回目】 まちづくり・自治会

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・1
4. 良かった・・・1
5. とても良かった・・・0
6. 欠席したのでわからない・・・5

Bコース

【1回目】 医療の日本語

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0

3. 普通・・・0
4. 良かった・・・1
5. とても良かった・・・2
《理由》医療のことは好きだから。
6. 欠席したのでわからない・・・4

【2回目】 医療

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・1
4. 良かった・・・0
5. とても良かった・・・1
6. 欠席したのでわからない・・・5

【3回目】 介護の日本語

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・1
《理由》中座したのでよく理解できませんでした。
3. 普通・・・0
4. 良かった・・・1
5. とても良かった・・・0
6. 欠席したのでわからない・・・5

【4回目】 介護

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・0
4. 良かった・・・0
5. とても良かった・・・2
《理由》認知症についてよくわかって、とても役に立つと思う。
図形を説明するゲームが楽しかった。
6. 欠席したのでわからない・・・5

Cコース

【1回目】 子育てのための日本語

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・0
4. 良かった・・・2
《理由》学校の日本語が難しい。
5. とても良かった・・・0
6. 欠席したのでわからない・・・6

【2回目】 子育て

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0

3. 普通・・・0
4. 良かった・・・2
5. とても良かった・・・0
6. 欠席したのでわからない・・・6

【3回目】 教育の日本語

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・1
4. 良かった・・・3
 《理由》書道を体験できたのが良かった。
 習字が楽しかった。
5. とても良かった・・・1
6. 欠席したのでわからない・・・4

【4回目】 教育

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・1
4. 良かった・・・2
 《理由》今の教育が知れたので良かった。
 今の中学校の様子がよくわかった。
5. とても良かった・・・4
 《理由》日本の学校が優秀な理由がわかりました。
 学校教育についてとても詳しくわかり、よかったです。
6. 欠席したのでわからない・・・3

講座②

【1回目】 文化を考える

1. 良くなかった・・・1
 《理由》異文化についての認識が改まった。
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・0
4. 良かった・・・2
 《理由》異文化に対する考え方を知ることができてよかったです。
 少し物足りなかったです。
5. とても良かった・・・2
 《理由》色々な国の人の意見を聞くことができたからです。
6. 欠席したのでわからない・・・7

【2回目】 異文化を体験する

1. 良くなかった・・・0
2. あまり良くなかった・・・0
3. 普通・・・0
4. 良かった・・・0

5. とても良かった・・・4

《理由》ゲームをしながら楽しく異文化を体験することができました。

自分がグループを移動しなかったのが残念ですが、「ルールを変えましょうか」というジェスチャーが意外と喜んでもらえたことが印象に残っています。

ゲームをやったから楽しかった。

6. 欠席したのでわからない・・・8

《理由》ゲームがおもしろいと聞いていたのに参加できず、とても残念だった。

【3回目】 異文化を認識する

1. 良くなかった・・・1

《理由》差別についてのビデオに衝撃を受け、深く考えさせられた。

2. あまり良くなかった・・・0

3. 普通・・・0

4. 良かった・・・2

《理由》差別に関するビデオ内容が衝撃的でした。差別意識が生じる過程が知れて、よかったです。

ビデオがよかった。

5. とても良かった・・・2

《理由》貴重なビデオを見ることができた。中でもファイリングのところが興味深かった。

差別を体験する授業はインパクトがありました。

6. 欠席したのでわからない・・・7

【4回目】 世界の価値観を知る

1. 良くなかった・・・2

《理由》自分の価値観がよくわかった。

心理テストのようでおもしろかった。自分の性格を見直すこともできた。

2. あまり良くなかった・・・0

3. 普通・・・0

4. 良かった・・・1

5. とても良かった・・・9

《理由》グループで意見を出し合いながらやれてよかったです。色々な意見が聞けて楽しかったです。

日本とは違う価値観を知れたからです。Pタイム、Mタイムもおもしろかったです。

楽しい時間でした。もう少し皆で話せる時間があればいいなと思いました。

普段話しができないような方々とディスカッションができたので。

話がわかりやすかった。

様々の側面からの話がおもしろかったです。

6. 欠席したのでわからない・・・0

2. 講座の日にちや時間について、あなたが参加しやすい曜日や日にち、時間について教えてください。

曜日	午前 希望時間 人数	午後 希望時間 人数	夕方 希望時間 人数	夜 希望時間 人数
月曜日	10:30～ 1	13:00～ 1	19:00～ 1	
火曜日	10:30～ 1	13:00～ 1	19:00～ 1	19:00～ 2
水曜日	10:30～ 1	13:00～ 1	18:30～ 1 19:00～ 1	19:00～ 1
木曜日	10:30～ 1	13:00～ 1	19:00～ 1	19:00～ 1
金曜日	10:30～ 1	13:00～ 1	18:30～ 1 19:00～ 1	
土曜日	10:00～ 4 10:30～ 1	13:00～ 3 14:00～ 2	16:00～ 1	
日曜日	10:00～ 6 10:30～ 1 11:00～ 1	12:00～ 1 13:00～ 4	16:00～ 1	
祝祭日	10:30～ 1 11:00～ 1	13:00～ 1		

3. 来年はどんな講座に参加したいですか。

1. 生活の日本語・・・2

たとえば ①銀行・郵便局などで使う日本語

2. 仕事の日本語・・・2

たとえば ①就職やインターンシップなど

②仕事に応募する時の日本語

③履歴書の書き方

3. 日本語の教え方・・・6

4. 異文化理解・・・10

5. 交流イベント・・・6

たとえば ①料理

②外国人とパーティー

③色々な地域の文化に触れる

④普通の高校との交流会

6. 防災訓練など・・・2

7. その他・・・0

8. なんでも自由に書いてください。

① 回数ごとに会場が変わるのは、ちょっと参加しづらいと思いました。

② 申し込みはメールを送る形より、例えばホームページから直接申し込む形になっていると良いと思いました。

③ 環境問題を取り上げてほしい。

④ 自分とは違う価値観を持った方々と話し合ったりして、自分についてもまた知れたと思います。会場を近くにしていただけると参加しやすかったかと思います。

⑤ お疲れさまでした。

⑥ 日本語や異文化に関する講座に興味があるので、また参加したいと思います。

⑦ 色々な意見で認識が変わり、より深く理解できた。ありがとうございました。

ふじのくに多文化共生ネット平成 26 年度シンポジウム アンケート結果

日時：平成 27 年 2 月 21 日（土） @沼津商工会議所

1. 第一部 基調講演『在住外国人のライフステージと日本語コミュニケーション』はどうでしたか？

- | | |
|------------------------------------|----|
| ☐ たいへん良かった | 14 |
| ☐ 良かった | 17 |
| ☐ ふつう | 1 |
| ☐ あまり良くなかった | 0 |
| ☐ 良くなかった | 0 |

- ・「多文化共生」という言葉を初めて聞き、理解出来た。
- ・日本人の立場から日本語教育を考えるとところが新鮮でした。
- ・日本社会のための日本語教育は大切だと感じました。
- ・日本語を教えるだけではダメ、対話が必要、そして交流の場を用意すること。
- ・具体例が豊富でためになりました。なかでも多文化共生を日本人の側から捉えていくという観点が新鮮でした。また、お墓の説明会に外国人が増えているという点も驚きでした。
- ・「生活日本語から、人（生活者）を支える日本語教育へ」の説明が分かりやすくて共感した。「自分らしい人生の実現」を支えていきたいと思った。
- ・いままで意識的にマイノリティの人たちという思いがあり、支援するイメージだったが、やはりそれぞれの立場で良さを共有し合い共生し共に社会を作ることが明確になって来た。
- ・分かりやすかった。
- ・「双方向性、互惠性」に大変共感しております。
- ・例を出して話してくれたので分かった。
- ・日本人／外国人と簡単に分けてはいけない、分けるのはキケンという意見に深く同感し、考えさせられました。
- ・分かりやすいし、いろいろ気がつかない視点からの話を聞いた。
- ・世の中の流れとして捉えました、
- ・これからの時代、多文化共生の問題についてもっと考えていかなければならないんですね。話にもっとメリハリが欲しかったです。
- ・ライフステージに関する基本的な情報を知ることが出来た。
- ・説明がとても分かりやすかったです。

2. 第二部 パネルディスカッション『外国人とともに地域の未来を創ろう』はどうでしたか？

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ☐ たいへん良かった | 18 |
| ☐ 良かった | 13 |

- ☐ ふつう 2
- ☐ あまり良くなかった 0
- ☐ 良くなかった 0

- ・災害という視点から、日本語教育やボランティアがどうやって関われるか考える機会になりました。
- ・多文化理解の考え方が重要なんだなと思いました。
- ・外国人パネリストの話で、自国の文化について気付くことは難しいことがわかった。
(本当に、T. P. O. は学校でも教えます。(お、あ、しす)とか、(お、は、し)とか、合いことばとして教えます)
- ・特に、日本人と外国人が写真を見せながら議論する機会を増やすことが大切だという話しは、とても良いと思いました。
- ・是非、静岡県内の学校、教育関係者の方々と情報共有していただけると、外国人観光客が来日した時も英語で自信をもって接することが出来る。学生および大人が増えると、静岡県および日本の観光事業の活性化、そして、海外からの企業誘致もさらに増えていくと思いますので、もし可能であれば、静岡県内の幼稚園、小学校、中学校での情報共有のための機会を積極的に??していただけたらうれしいです。
(??部分判読不能)
- ・県の施策、取組が知れたのが良かったです。
- ・コーディネーターの司会がとても聞きやすく分かりやすかった。
- ・A B Pの取り組みに期待したい。
- ・見えない文化、外国人⇄日本人だけでなく日本人同士も年代や知識で分かりあえない事もあるということで、やはりコミュニケーションが大切ということしみじみ感じます。
- ・ひとりひとりの説明が短かった。
- ・質疑応答の時間も欲しかったです。
- ・時間が短すぎた。多くの方のお話しはそれぞれ良い、もっと聞きたい。
- ・それぞれの立場として取り組まれていることが知れて良かったです。
- ・パワフルで的確なコーディネーターのもと、とても時間がたつのが早く感じた。
- ・一部よりもう少し身近に感じた。
- ・いろいろな話が聞けて良かったです。もう少し時間が欲しかったですね。
- ・具体的な話しが出たのが良かった。
- ・各方面の方から、違った視点からのお話しが聞けたので参考になりました。

3. ^{ほんじつ}本日のシンポジウムのことは ^しどのように知りましたか？

- ☐ 知人・友人から 1 6
- ☐ チラシで 1 1
- ☐ ふじのくに多文化共生ネットからの手紙で 7
- ☐ Facebook で 3
- ☐ ホームページで 0
- ☐ その他 2 (高澤からの案内)

4. 外国人の方：日本人の友だちがいますか？

日本人の方：外国人の友だちがいますか？

☐ はい、たくさん います 7

☐ はい、すこし います 2 1

☐ いいえ いません 6

5. 地域の未来のために、あなたには何ができるとおもいますか？

- ・ 交流の場に行くこと、交流の場を用意すること、学校や社会に広げて行くこと。
- ・ 何かしたいと思っていますが模索中です。
- ・ 人材育成
- ・ 地域に住んでいる人（日本人）と繋げること。
- ・ いま小中学校へ出向き、日本語支援ボランティアをしている。この制度をもう少しきちんとした組織（市、学校教育）を作りたい。
- ・ 自分に対して一生懸命生きること（その結果助け助けられ、相手が誰であろうと自分の受けた恩を返していくように思います）自助、共助
- ・ HUGの訓練の指導をしています。各地の訓練に皆さんが参加してくれて見よう見まねで意思疎通が出来るのではないかな。
- ・ 一人のヒトとして、回りの人と対話すること、すごく地道なことだけど、一番大切なことだと感じました。
- ・ 日本語を学んで良かった！日本文化に触れて良かった！日本人と友だちになれて良かった！ことを目指して国内外で活動して行きたいと思っています。
- ・ 異文化をもっと理解出来るよう努力すること⇒その仲間を増やすこと。
- ・ 近くの人と仲良くする。
- ・ 分かりませんが自分に出来ることは何かしらしていきたいですね。やらなければならないことが多すぎです。
- ・ 国際交流の機会が増えるよう行事を企画したり、地域の外国人と日本人が協働できる機会を考えていきたいです。

6. あなたのお住まいは どちらですか？（どこに住んでいますか？）

沼津市 8

三島市 4

静岡市 1

伊豆市 1

富士宮市 2

富士市 1

長泉町 1

小山町 1

7. 次回の講座やシンポジウムのご案内をご希望の場合は、お名前と連絡先をお書き下さい。

16名記入

8. 自由記載欄 / 今日のシンポジウムについて感じたことを自由に書いて下さい。

- ・公共がこのような外国との共生を考えてくださっているのは頼もしいと思います。しかし公というのはやはり鳥瞰的な感じがしました。実際、日本語を教えているのは、安く、外国人の要望に添ったボランティア(グループ)の存在です。しかしボランティアといっても維持費が必要であり、会場費や授業料(90分500円)など金が動く、すると、営利だと言われ会場を貸してくれない。講座の設定もボランティアの力がある。学校や地域に出前できるグループがあるので学校等には助成金を与えて呼べるようにしてもらいたい。ボランティアの力は道を歩く人のように一人一人一つ一つ見ること、動くことが出来るところにある。共に協力すべきだ。学校は忙しいからボランティアを使っていくべき。学校の先生に全てを押し付けない。学校は勉強(教科)をする所だ。
- ・配布資料「地震防災ガイドブックやさしい日本語版」はとても分かりやすくて便利で良いなと思いました。予算等の問題がなければ静岡県内の窓口、宿泊設備、観光案内所、公共機関等にて配布もしくは掲示しておく外国観光客の方々も静岡県内の防災対策についてより深く理解していただけるとと思いますし、静岡と海外の国際交流もさらに多くなっていくと思います。
- ・コーディネーターが紹介された地域ポータルサイトの作成を在留外国人の方々とともに早急につくって発信するべきだと感じました。
- ・何より良かったのは、外国人というより同じ市や県、社会を作るもの同士での人と人とのコミュニケーションの大切さを感じたこと。そして静岡県に全国に先がけ、条件が制定されていること、しかし男女共同参画のときのように大臣まで指名され大がかりに県から市へと広められたことに対し、やや地味だし、市町村へ降ろされていてもあまり接することがないような気がする。
- ・さまざまな分野からパネラーを呼ばれて、視点が違って良かった。
- ・地域のどこに外国人がいるのか分からなくて協力のチャンスが無いので、近所の情報が知りたい。自分の職場では防災訓練等無いので地震が来てもどこに逃げたら良いかわからなくて困っている。まずは日本の中でもしっかりシステムを根付かせてほしいです。
- ・他文化も良いが、日本人のコミュニケーションが最初で、うまくお互いが理解しあえ

ればOK。HUGの訓練を日本国民全員が行うように。訓練はこまったらするのではなくいつも一緒に行う。他文化課からの要請でも防災啓発に3.11のビデオを見せるそうすれば自分の命が大事だし、他人にも迷惑をかけない様になるかも？日本人は他人に迷惑をかけない生活をしていることを外国人に知ってもらう。

- ・ 二十数年前、「日本語教育」として講師養成講座を知ってから、ずっと何も進まなかった自分ですが、急にこの数年で外国が身近になった。そして今日より深く理解するきっかけとなり、現在中高生の親として子供の教育の視野に具体的に入ると感じた。
- ・ 近くに外国人がいたら知っていることを活かして教えられたらいいと思います。
- ・ 今回このようなのに初めて参加したのですが、多文化共生、日本はもっと取り組まなければいけないんでしょうね。
- ・ 司会や進行がスムーズで内容も濃いものだったと思います。いろいろ準備していただきありがとうございました。
- ・ 電話同様、パソコンの使用も禁止にしてください。キーボードの音がうるさくて、集中できませんでした。記録はペンですべき。

以上

ふじのくに多文化共生ネット 『多文化共生サポーター育成に向けた地域課題と提言』

この2年間の中で、ふじのくに多文化共生ネットは、静岡県東部地域において滞日年数が長く、高い日本語能力を有する在住外国人が、地域の活動へ社会参画することのできるきっかけを作る日本語教育を推進してきた。この日本語教育の特徴は、「ふじのくに¹」の魅力を、日本人と外国人が日本語を使いながら、共に地域の魅力について語り合い、その魅力を多言語で発信していくことを目標としたことにある。日本に住んでいながら、地元の観光名所やその歴史など、あまり外国人が知らない土地の特性について、日本人と共に学ぶことで、地域に愛着を持つことができ、双方の生涯学習にもつながったと言えるだろう。また、翌年には、初年度の受講者から、テーマごとに日本語を学びたい、異文化理解を深めていきたいという要望があり、講師に地元住民を迎えて講座を開講することで、教える、教えられる関係から、共に地域の課題について考える関係へと発展していったことを特記しておきたい。また、コミュニティリーダーになり得る在住外国人が、人生の節目で訪れる、子育て、医療、介護といった場面で必要となる日本語だけではなく、知っておくと便利な情報の収集ができたことは、今後の社会参画に向けたエンパワメントになっていることがアンケートの結果からも確認することができる。

しかしながら、現状は、彼らが自立して活躍できる領域にたどり着いたとは言い難い。静岡県内では、多文化共生は西高東低と揶揄されるほど、未だ地域住民に多文化共生の意識が十分に浸透しているわけではない。このことは、国際交流が姉妹都市交流の活動であることや地域の日本語教室があっても地域の中ではその存在があまり見えないことから推察することができる。また、彼らと接点の多い日本語ボランティア側でさえも、なかなか彼らの現状や活動の様子を把握することが難しいのも課題である。これは、リーダー的存在の外国人が、当該地域で活躍する機会が乏しく、学んだことに対して達成感を持つことができないことが原因となっている。在住外国人が日本語を学び、日本語を使い日本人とコミュニケーションを図ることができるようになれば、個人レベルでの交流は可能である。しかし、社会参画を前提にする場合、地域や自身が所属するコミュニティ、たとえばPTAや子ども会などの場で、彼らが何らかの役割を担い、それを達成することをしない限り、地域に貢献できた、活躍できたという実感を持つことはできない。つまり、学んだことを活かし、それをアウトプットし、自身が地域に役割を見出せないと、多文化共生サポーターとしての自発的な活動を促すことはできないのである。

こうしたことから、多文化共生社会に資する多文化共生サポーターの育成には、まずその人自身が、生きていく中で、安心安全な生活を営めるよう必要な情報を収集し、他とのコミュニケーションを深めることができる日本語能力の習得が求められる。そして、自身の母国文化とふじのくにでの生活経験から、同国出身者へはその地域の魅力を伝え、一方

¹ 静岡県のこと。富士山を有する県であることから「ふじのくに」と称している。

日本人には自分の視点からの地域の魅力を伝えられる能力の習得をしなければならない。その上で、我々のような中間支援にあたる団体には、これらの一連の学びを活かす場づくりが最も必要となる。そのために県民は、地域の多文化共生の意義と理由について、改めて真剣に考えていかなければならないだろう。県民の意識啓発を継続して行っていくことが重要である。

これからの持続可能な社会のためには、ふじのくに東部地域の総合的なネットワークの構築を視野に、行政、国際交流協会、NPO、学校、企業など、この社会を構成しているあらゆる機関や人と共に連携・協働して、在住外国人も地域に対して愛着を持ち、その地域に貢献できる人材となるよう、人材育成としての支援体制の整備と機会の提供を行っていくことが望ましいことを提言する。